

# 安全データシート



SANYO KASEI

2018年11月28日

作成

2020年1月16日(第3版)

改定

管理番号 9811501

## 1. 製品及び会社情報

製品名称	ハイパワー ホース用材料 HI POWER-NTS	
会社名	: 株式会社長野三洋化成	
住 所	: 長野県東御市滋野甲2305	
担当部門	: 技術開発部	
緊急連絡先電話番号	電話番号 : 0268-62-1631 FAX番号 : 0268-62-4042	
	株式会社長野三洋化成 技術開発部 電話番号 : 0268-62-4043	

## 2. 危険有害性の要約

最重要危険有毒性	: 高温・長時間の加熱により一酸化炭素発生の恐れあり。
物理的、化学的危険性	: 常温において安定である。
特定の危険有害性	: 特に無し。

## G H S 分類

物理化学的危険性 : 分類対象外

健康に対する有害性	急性毒性(経口)	: 分類できない
	急性毒性(経皮)	: 分類できない
	急性毒性(吸入: 気体)	: 分類対象外
	急性毒性(吸入: 蒸気)	: 分類できない
	急性毒性(吸入: 粉じん、ミスト)	: 分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	: 分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/刺激性	: 区分2B
	呼吸器感作性	: 分類できない
	皮膚感作性	: 分類できない
	生殖細胞変異原性	: 分類できない
	発がん性	: 分類できない
	生殖毒性	: 区分1B
	生殖毒性・授乳影響	: 分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	: 分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	: 分類できない
	吸引性呼吸器有害性	: 分類できない

環境に対する有害性	水生環境急性有害性	: 分類できない
	水生環境慢性有害性	: 分類できない
	オゾン層への有害性	: 分類できない

## ラベル要素

### シンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報 危険有害性情報  
および注意書き 眼刺激  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

安全対策 使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
取り扱い後は水と石けんでよく洗うこと。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

## 応急措置

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
その後も洗浄を続けること。  
ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当を受けること。  
眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当を受けること。

## 保管

施錠して保管すること。

## 廃棄

内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

## 3. 組成及び成分情報

单一製品・混合物の区別 : 混合物  
化学名又は一般名 : ポリ塩化ビニルを主成分とする混合物

## 基材組成

構成組成物(化学物質名又は一般名)	CAS No.	(%)
1 ポリ塩化ビニル他	9002-86-2/Others	<55
2 フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	117-81-7	<35
3 アジピン酸ジイソノニル	33703-08-1	<15

## 顔料組成

色名	構成組成物(化学物質名又は一般名)
1 ORANGE	非公開

## 危険有害成分情報

法規制	No.	物質名	含有率(%)
労働安全衛生法指定物	481	DEHP	34
PRTR法指定物質	355	DEHP	34

## 国連分類

: 国連分類に該当しない

## 4. 応急処置

吸入した場合 : 洗浄水でうがいをする。多量に吸入した場合は医師の診察を受ける。  
皮膚に付着した場合 : 石鹼水又は水で洗浄する。異常があれば医師の診察を受ける。  
目に入った場合 : 目をこすらず、直ちに水で洗浄する。もし、異常があれば医師の診察を受ける。  
飲み込んだ場合 : 多量に飲み込んだ場合は医師の診察を受ける。  
最も重要な徴候及び症状に関する簡潔な情報 : 高温で塩化ビニル樹脂を成形していると樹脂が分解して塩化水素等の有害性ガスを発生することがある。目や喉に異常を感じた時は直ちに新鮮な空気の場所に移動する。又、医師の診察を受ける。

## 5. 火災時の措置

消防剤 : 散水、ドライケミカル、泡  
使ってはならない消防剤 : 特になし

**火災時の措置に関する特有の危険有害性**

: 燃焼すると有害性ガスを発生する。ガスの主成分はHCl、CO、CO<sub>2</sub>である。

**特定の消火方法**

: 空気呼吸器を着用して消火作業に当る。

**消火を行う者の保護**

: 防護メガネ、空気呼吸器を着用する。

## 6. 漏出時の措置

**人体に対する注意事項**

: 通常は特に必要としないが、防護メガネを着用するのが望ましい。

**保護具及び緊急時措置  
環境に対する注意事項**

: 手袋、保護マスク、ゴーグル等を着用し作業に当る。  
: 飛散物の再飛散防止の処置をとり、排水溝、川への流入を防止する。

**回収方法**

: 飛散したものをかき集めて空容器に回収する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

**取扱い**

**技術的対策**

: 取扱いは換気の良い場所で行い、防護メガネ及び防護マスクを着用する。火気を近づけない、飛散させない。

**安全取扱い注意事項**

: 必要に応じて局所排気装置を設置する。

**保管**

**技術的対策**

: 通常は特に必要としない。

**混触禁止物質**

: 通常は特に必要としない。

**保管条件**

**適切な保管条件**

: 直射日光を避け、局所廃棄設備を有し、外気温の影響を受けない換気の良好な冷暗所に保管する。

**避けるべき保管条件**

: 直射日光が当り、換気の悪い高温多湿での保管を避ける。

**推奨容器包装材料**

: 紙袋、アルミ袋、プラスチック容器、金属容器等で保管する。

## 8. 暴露防止及び保護処置

**設備対策**

: 飛散しやすい場所には、掃除機等を設置するのが望ましい。

**保護具**

**呼吸器の保護具**

: 作業時には防護マスク、火災時には空気呼吸器。

**手の保護具**

: PVC又はゴム製手袋を使用するのが望ましい。

**目の保護具**

: 防護メガネを使用するのが望ましい。

**皮膚及び身体の保護具**

: 防護服、安全靴を着用するのが望ましい。

## 9. 物理的及び化学的物質

**物理的状態**

**形状、色、臭い**

: ペレット状の固体

**色**

: 指定色

**臭い**

: 僅かに特有の臭い

**pH**

: 適用外

**融点**

: 明確な融点は無く、広い温度範囲で溶融。

**沸点**

: 該当せず (200~300°Cで分解)

**比重(真比重)**

: 1.17 ± 0.03 (23°C)

**溶解度(溶解性)**

: 水には不溶。殆どの有機溶媒に不溶であるが、ケトン類、THF類には溶解する。

**発火温度**

: 情報なし

**可燃性**

: あり(消防法:指定可燃物)

**発火性**

: 常温では発火しない。

**酸化性**

: 常温では安定な物質である。

**粉塵爆発性**

: ペレット状の為、その可能性は非常に低い。

## 10. 安定性及び反応性

**安定性**

: 通常の取扱いにおいて安定である。

**反応性**

: 常温において安定である。

**特定条件下で生じる危険な反応**

: 火気に近づけない、飛散させない。

**避けるべき条件**

: 通常は特に必要としない。

**避けるべき材料**

混触危険物質	: 通常の取扱いにおいてはない。
危険有害な分解生成物	: 燃焼すると刺激性のガスを発生する。ガスの主成分はHCl、CO、CO <sub>2</sub> である。

---

11. 有害性情報	急性毒性	: 情報なし
	皮膚腐食性・刺激性	: 情報なし
	眼に対する重篤な損傷・刺激性	: 情報なし
	呼吸器感作性	: 情報なし
	皮膚感作性	: 情報なし
	生殖細胞変異原性	: 情報なし
	発がん性	: 情報なし
	生殖毒性	: 情報なし
	特定標的臓器・全身毒性 - 単回暴露	: 情報なし
	特定標的臓器・全身毒性 - 反復暴露	: 情報なし
	吸引性呼吸器有害性	: 情報なし
12. 環境影響情報	生態毒性	: 情報なし
	残留性/分解性	: 環境中で容易に分解しない。
	生体蓄積性	: 蓄積しないものと考えている。
	土壤中の移動性	: 情報なし
13. 廃棄上の注意	製品	: 排ガス処理装置付きの焼却設備(800°C)にて焼却し、又は非危険廃棄物として埋め立てる。
	残余廃棄物	: 非危険廃棄物として埋め立てる。
	汚染容器、包装	: 排ガス処理装置付きの焼却設備(800°C)にて焼却するのが望ましい。
14. 輸送上の注意	陸上	: 容器の破損及び荷崩れ防止に注意する。
	内陸水路	: 特になし
	海上	: 特になし
	航空	: 特になし
15. 適用法令	化審法	: 既存化学物質
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 産業廃棄物(廃棄物として処理する場合の分類)
	高圧ガス保安法	: 適用を受けない。
	消防法	: 指定可燃物
	毒劇物取締法	: 適用を受けない。
	船舶安全法	: 適用を受けない。
	輸出貿易管理令	: 適用を受けない。
16. その他の情報	1) 伊藤公正編「プラスチックデータハンドブック」工業調査会	
	2) IARC "IARC Monographs on the Evaluation of carcinogenic Risks to Humans"	
	Vol 1~56 1972~1993	

～記載内容の取扱い～

記載内容は現時点での入手できる資料・情報・データに基づき作成しておりますが、物理化学的性質・危険・有害性等に関してはいかなる保証をなすものではありません。

又、注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を施してください。